

令和2年度第2回地域福祉推進委員会会議録

日時	令和2年12月16日(水)午前10時00分～午前11時40分
場所	宇治市役所8階 大会議室
参加者	<p>委員：加藤委員長、岡野委員、奥西委員、光田委員、羽野委員、松本委員、迫委員、藤本委員、桶屋委員、栢木委員、本城委員、海老名委員、黒川委員、萩原委員、俣委員、山上委員、山本委員、西村委員、濱田委員、上西委員、藤田委員</p> <p>(欠席委員：原田委員、伊勢村委員)</p> <p>事務局：星川福祉子ども部長、藤田健康長寿部長、澤田福祉子ども部副部長兼地域福祉課長、鶴谷地域援護係長、福井主任、幡山主事、土田事務局次長(社協) 株式会社 名豊 谷貝課長</p> <p>傍聴者：2名</p>
委員長	<p>◆次第1 開会</p> <p>◆次第2 「地域福祉推進のプログラム<推進のめやす>」について</p> <p>「地域福祉推進プログラム<推進のめやす>」について、事務局から説明をお願い致します。</p>
事務局	(地域福祉推進プログラム<推進のめやす>について説明)
委員長	ご質問、ご意見があればお願いします。
委員	<p>2点ほど質問と要望がございます。資料3、地域福祉推進プログラムの54ページ、地域協働コーディネーターのことについて質問させていただきます。</p> <p>私も20年ほど前に、地域協働コーディネーターの研修を受けたのですが、その後いろいろな声がかかるとしたら、何もかからなくて、地域協働コーディネーターは宇治市が養成されたにも関わらず実質的にはほとんど動いていないという印象があります。</p> <p>第1期計画においては様々な場面において主体的にご活躍いただいておりますと書いてあって、第2期については実施について目処が立っていないと書いてあります。様々な人材の方がいて、地域で活躍していただける核となって活躍していただける方が集まっておられるのに、地域協働コーディネーターをあまり活用されていないのはもったいないと感じています。そういう意味で、地域協働コーディネーターを今後の施策、特に第3期の中でどう活かしていくのかという視点も持つべきではないかと思います。それについてお答えいただけるとありがたいです。</p> <p>もう一つは地域福祉推進プログラムのそのものことです。第2期は事業の実施状況を整理されていて、そういう意味では非常によく出来ていると思って感心しています。</p> <p>第3期に、地域福祉推進プログラムを作るのであれば、数値目標的なもの、それぞれの目安として、どういう具体的な目標を設定するのか、例えばアウトカム指標み</p>

	<p>たいなもので、例えば自殺者ゼロを目指して数値目標を掲げて、それに対してどこまで進んでいるのか、数値目標的なものがないと、ABCの評価では客観性が乏しいのではないかと思います。地域福祉推進プログラム、せつかく進行管理に役立つ物を作っておられるのであれば、もう少し客観的な評価ができる指標を盛り込んで作っていただくのが良いのではないかと思います。以上2点です。</p> <p>地域協働コーディネーターについては、第2期計画で、こういう形で養成するとさせていただきますながら現在実施に至っていないことについては、課題があつてのことですが、申し訳ないと考えております。</p> <p>第3期計画の中で地域協働コーディネーターの活用についてどういうふうに掲載していくのかということに関しましては、今日の地域の実情や、各団体の事情等を含めまして、宇治市の実態に合うような形での活かし方について、推進委員会の中でも議論をいただけたらと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>評価方法については、アウトカム指標という話が出ていましたが、長年にわたり市役所でもそういった指標がつかれないかということで模索をしてきているのですが、何分予算に基づいて事業を執行するということがあります。アウトカム指標と言いますと成果指標ということで、こういう事業をやったからその結果としてこういう効果があつたということを表すための指標ですが、なかなか難しく、いろいろな議論の末、今の評価方法となった経過がございます。</p> <p>今の評価については、あくまでも行政側の自己評価ですので、自己評価したものを推進委員会の中でみていただいて、いろいろご意見をいただくことで客観性を確保しているということになっております。</p> <p>第3期の評価方法については委員会の中でもご議論いただきたいと思いますが、経過としてはそういう経過ですので、よろしく申し上げます。</p>
<p>事務局</p>	<p>地域協働コーディネーター、これは非常に重要な取り組みでございます。</p> <p>地域福祉の一丁目一番地は、私たちのまちだから、私たちで良くしていきたいという、住民市民がしっかり地域づくり、まちづくりに関わっていくところにあります。地域協働コーディネーターの活用、より力を発揮していただくということで、さらに我々もいろいろ考えて参りたいと思います。大事なご提言をいただきました。</p> <p>2つ目のエビデンス、ビデはビデオのビデで見えるということ、これも大事な課題でございます。ボランティアが京都府内の社協に登録している人が10年で14%減っています。京都市内は23%ほど減っていると思います。</p> <p>数値目標を立てていくという、資料6にあつたような様々な現状把握、そして現状が今どういった状態にあるのかをふまえた上で、今後どういった目標を設定していくか、これも大事な課題のご指摘をいただきました。</p>
<p>委員長</p>	<p>10月から宇治市地域福祉課の委託を受けまして総合福祉会館でひきこもりの相談窓口をしております。身近にひきこもり窓口ができたということで、10月から開設したのですが、10月は15名、11月は5名という方が相談に来られています。</p> <p>新しく相談員さんに来てもらっていますが、青少年こころの電話相談について質問いたします。今まで教育委員会さんの方で青少年こころの電話相談という事業をしております、評価がCになっております。</p> <p>資料5-1の5ページ、宇治市が37、8年間この事業をして来られて、昨年度でも500件以上の相談があり、その相談員さん達は54万円程度、宇治市でいったら本</p>

	<p>当に少ない予算で運営してされていて、青少年こころの電話相談養成講座を何か月も受けて、講師の先生方は心理面、発達面など、いろいろ力をお持ちの方の養成講座を受けて、研修を受けておられます。</p> <p>電話相談、来所相談でも、とても力量をお持ちでとても優秀な方達です。今年からふれあい教室の隣の部屋で教育相談ということで、そこにも 20 人のボランティアの方が予算ゼロで詰めておられます。そのうちひきこもり窓口の方に 11 名の方が応募してもらいましたが、2名の方に来ていただいています。本当に優秀な人材の方の活躍の場所を用意してあげてほしいと思います。</p> <p>また、ボランティアで、相談員を位置付けているのは、おかしいのではと思います。自殺予防におきましても、市民が身近に相談できる、そういった場所はとても大切だと思うので、ボランティアの相談員さんの活躍の場所を、女性相談員さんなど身近に相談できるところに、活躍の場所を用意していただけたらと思います。</p>
事務局	<p>青少年電話相談活用事業は、推進の目安 72 ページの評価Cの理由としましては、市民ニーズ及び相談状況等をふまえということになっております。</p> <p>廃止などの話もありましたが、活躍の場を確保したいという思いもあって、リニューアルをして再スタートしておりますが、市役所内の情報共有などが十分できていない部分もございます。</p> <p>自殺対策のお話もありましたけれども、庁内の連絡会議等を作り、連携をとっていけるように我々も取り組みをしているところではございます。引き続き今のご意見をふまえて、横の連携に努めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>大事なご意見ありがとうございました。事務局からの説明がありましたように、次の議題とも関連しますが、せっかく一生懸命関わっていただいている市民の方々のパワーを活性化といいますか、機能を高めていく工夫していく必要がございます。</p>
委員	<p>先ほどと同じような話になるのですが、京都府では産前産後のサポートをする産後のケアの養成講座が行われ、実際に(ケアに)行く人と、それをコーディネートする人の研修が3、4年前から行われていて、宇治市の人も受けています。</p> <p>子育て支援研修を京都府が国のお金でやっていますが、宇治市の方も結構参加されています。</p> <p>私は子育て支援分野の講師としていっているのですが、結構出会います。養成講座を受けっぱなしで、出口がないという状態です。先ほどの協働コーディネーターもそうですし、最近でしたらフューチャーデザインというのも宇治市の方でされていて、養成講座を行なって思いがある方がそこに来られたのに、出口がないと言うところが、全部の共通したところではないかと思うので、子育て関係でしたら、広場などで受け止めてもらって、すごく助かったので今度は担い手になりたいという方、そういう人材を拾っていかないと損なうと思います。</p> <p>その出口として、これだけの資料があって、何年間かここに参加させていただいて、資料がすごく細かくなってきて、いろいろなことを判断する材料を提示していただけて、わかりやすくなったと思うのですが、何年経っても、宇治市で活動している任意団体や NPO のリストが一切上がってこないです。そこにもしかしたら需要とかあるかもしれないので、なんとか一度どういう市民団体、任意団体、NPO があるというのを洗い出していただき、その人たちが一体地域の中でどこを担っているのか</p>

	<p>ということをリスト化していくと、養成された方が行政の仕事を担うということもあるかもしれないけれども、NPO などと繋がっていくということがあるかもしれないし、NPO がどんなことを宇治市の中でしているのかということが見えた時に、一緒にやれることが見えるかもしれないので、何とかそこをリスト化していただけるようお願いできたらと思います。</p>
事務局	<p>人材育成、養成ということで、いろいろな取組をさせていただいておりますけれども、活躍の場がなかなか無いというご指摘も以前からお聞きしております。</p> <p>地域協働コーディネーターの話がございましたけれども、今の計画の中での取り扱いとしましては、地域が主体的に懇談会をされる際の環境づくりという視点で設けさせていただいております。</p> <p>我々としては、地域の方が主体的に、いろいろな取組をなされる中で、そういう人材の方がいかに関わっていただけるかということかと思っております。そうした主体的な地域の活動をどう盛り上げていくのかということが、課題になっていると思います。</p> <p>NPO の一覧については、京都府から情報を提供させていただいておりますので、またの機会にご提示させていただけると思いますけれども、市民活動団体で行政が把握しているところ、社協さんが把握されているところ、それ以外はなかなか把握が難しいのが現状と思っていますので、計画の策定段階において出来る範囲で、努めていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>関連しますが、社協で何かご意見ございますか。</p>
事務局	<p>団体については、いろいろな形で把握する手段、助成金でありますとか、登録もありますけれども、社協では貸し出し備品等でもいろいろな団体と繋がりますので、改めてそういうところからも人数ですとか確認していければと思っています。</p>
委員長	<p>有名なフィンランドのネウボラという施策がありまして、妊娠がわかった時から6歳まで保健師が対応しながらマンツーマンで関わってという、日本でもそれが注目されて試行的になされている自治体もございますけれども、妊娠した時からシームレスに、子育て支援をしていく、施策を充実していく、こんにちは赤ちゃん事業など様々な関わりがありますけれども、そういった様々な関わりをより機能化していくということが一定していることだと思います。</p> <p>宇治市のマタニティチャームというセルフヘルプ的なボランティア団体がありまして、妊娠したときからお母さん同士で、ママ友を作っていくという、そして子育てにまでつながっていくというそういうことやっているところもあります。</p> <p>いずれにせよ、コーディネート機能、マッチング機能、全体にどのような NPO や任意団体があるのか、これも見える化ですね、総覧できるようにさらに努めていく必要があるかと思っております。</p>
委員	<p>地域協働コーディネーターのことです。私が社協にいたころ、この企画に直接関わっていたので、少しだけ補足をさせていただきたいのです。</p> <p>地域協働コーディネーターは、先ほどのお話でいえば、実は担い手づくりではないのです。いろいろな人たちを地域の適切な場所に繋ぐ、コーディネートするイメージで、拠点を作れないかなあと考えたのがはじめの発想でした。地域協働コーディネーターは、むしろその繋ぎ手が大切なんだという視点で、そういう人たちが大事なんだと</p>

	<p>ということで、パートナーシップの原則、協働の在り方の基本、住民自治、市民自治、地域の中でいろいろな分野で目を繋げていくような人たちを作るという発想で、地域協働コーディネーターを企画したのですが、いろいろな事情で進んでいないのが現状です。</p> <p>◆次第3 自殺対策計画推進のめやすについて</p>
委員長	<p>それでは、次の議題コロナ禍で話題になってきています自殺の問題、自殺対策計画推進のめやすにつきまして事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(自殺対策計画推進のめやすについて説明)</p>
委員	<p>宇治市で過去に、3,4年前ぐらいから、自殺を実際にされた人数はありますか。</p>
事務局	<p>宇治市の自殺者数については、自殺対策計画にも記載させていただいておりますけれども、計画の3ページに年次推移があります。平成30年までの人数になっておりますけれども、昨年度は21名の方がお亡くなりになられています。</p>
委員長	<p>自殺の10万人当たりの率は、京都府は低い方です。京都府は確か少ない方から3番目くらいだったと思います。宇治市はその京都府の中でも少ないです。</p> <p>要因分析は必要だと思いますが、ありがたいことだと思います。政府は自殺が非常に多いということで、力を入れるようになったわけではありますが、そのことによって、自殺を語る事が今まで非常に恥ずかしいことであったり、隠すことであったりという文化があったのですが、オープンに語られるようになったということが、このいろいろな取り組みが進められる中で、大きな意味があったのではないかとこの総括もございます。</p> <p>いのちの電話やよりそいホットラインなど様々な形で、孤立した人達が相談できるようになったということも重要なことかと思えます。</p>
委員	<p>自殺の問題は非常に関心を深く持っており、よりそいホットラインにも関わって実施しております。いわゆる自殺の問題はデリケート問題でもあるし、なかなか実際難しいところがあるのは事実です。</p> <p>質問の3-1、コンビニエンスストアをうまく活用できないかということをご提案されてもらっているのですが、地域でいろいろな方が集まれる場所はコンビニくらいしかないと思います。もちろん公民館や集会所もあるのですが、そういうところは例えばサークルやっている人とかある特定の人が集まる場所なので、コンビニは365日24時間基本的にいつでも開いていて、誰でも行ける、そこには人が集まるし、若い人も高齢者の方も行ける、そういう意味では社会の一つの大きな拠点だと思います。コンビニを社会の大きなひとつの資源としてもっと社会的にいろいろ使えないのかなというのが私の思いとしてあります。</p> <p>例えば自殺対策の研修をコンビニの従業員の方、オーナーの方にゲートキーパー研修などを受けていただいて、人と人をつなぐ接点になるとか、仮に少し心配だなという方が来られたら、コンビニの方でアドバイスができるとか、そういうことが人と人を支える社会のきっかけになるのではないかとこの思いがあります。</p>

	<p>コンビニエンスストアの活用、語弊があるかもしれませんが、コンビニエンスストアに関わる人たちに自殺問題について理解を深めていただくという場や、情報提供の仕方を考えてほしいです。こういう場にコンビニエンスストアの人は来ていないですよ、コンビニの事業者が来ていません。そういう意味でこうした所に、コンビニエンスストアの方が来られて、自殺対策の問題について実際に見てもらい、聞いてもらうということが大事だと思っています。</p>
委員長	<p>ご意見として承っておきたいと思います。</p>
委員	<p>質問に書かせていただいたのが言葉足らずだったのかと思うのですが、去年の自殺者、宇治市が16名、自殺者の発表は警察の発表だそうです。宇治市で21名とお聞きしましたが、誤差の部分は住民票のチェックなのか、教えていただけますか。</p>
事務局	<p>再度確認はしますが、厚生労働省の地域における自殺の基礎資料がございまして、それは警察庁の統計から、さらに厚生労働省が自殺日と住居地で取りまとめた資料の方から数字を確認させていただいたものです。もしかしたら誤差が参考している資料によって出てきているのかもしれないですが、16名という部分まだ確認が出来ていませんので、確認させていただきます。</p>
委員	<p>ゲートキーパーが宇治市に研修もないということで、残念だと思っていましたが、各企業や市役所の中で研修していただいているのは、本当にずいぶん進歩してきて嬉しいと思っているのですが、残念ながら、相談窓口が全部京都です。宇治市の方が京都の方に相談するのではなくて、宇治市にそういう人材がないわけではないので、そういう方たちを活用して、もっと宇治市の方が宇治市の方の相談に乗れるような窓口を作っていただきたいです。</p> <p>秘書広報課で出している相談窓口一覧を見せていただくと、いろいろな窓口があって、住んでいて安心だなと思うくらい窓口があるのですが、そこに直接つないでいただけるようなシステムをつくっていただきたい、ワンストップと書きましたが、相談を受けて、はいそうですかと終わるのではなくて、きちんとつないでいただけるような、最後まで責任もっていただけるような、妊娠した時から生まれて育つまでの間をきちんとみていただけるのと同じように、相談をした方が最後まできっちり自殺しないで済むところまでみていただけるようなシステムを構築していただけるとありがたいと思います。ぜひ考えていただきたいです。</p>
事務局	<p>ただいまの相談窓口の件ですけれども、宇治市の中で、ワンストップでいただけるような窓口は現在ないのが実情です。</p> <p>国も含めて広域的に、国・都道府県・市町村ということで役割を分担する中で、民間の力もいただきながらいろいろな専門相談窓口が開設されているのが現状です。</p> <p>宇治市としてすべきことは何か、できることは何かということを考えた際に、いろいろな市の窓口で、少しでも自殺に関連するような言動等ございましたら、専門窓口もしくは、宇治市の中でも解決できる手法、手段がある場合もありますので、適切にその方の相談内容に応じて、つなぐということが一番大事と考えております。宇治市の中で全て解決するようなことができれば一番良いのですが、すべて宇治市で解決することは現実的には難しいと考えられますので、当面は今のやり方を継続しながら、</p>

<p>委員長</p>	<p>少しでも自殺対策に繋がるような取り組みを模索させていただきたいと考えています。</p> <p>先ほどからご意見ありますように、自殺される方あるいは希死念慮、死を願う思いを持ってらっしゃる方は傷つきやすくなっておられることが多いです。その中で匿名性を大事にされるということもありますので、全然知らない人に相談したいというニーズもあります。</p> <p>自殺統計研究している人が常に言う事ですが、失業の波と自殺の波が重なるということを行います。生活基盤で、追い込まれていくということがありますし、生活のゆとりのようなもの、安らぎやゆとりのようなものとの関連、特に若い人達、座間の事件がありましたが、生きる意味や生きがいのようなものを求めているということもあって、経済や教育や総合的な問題と絡むことでもございます。</p> <p>命を大切にすることとはすべてに通じる大事なテーマでありますので、皆さん方と知恵を絞って自殺に追い込まれることのない宇治市をつくって参りたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>自殺の要因はいろいろあると思うのですが、私自身も経験してきていますけれども、地域には隣に住んでいる人を知らないというのが現状です、地区によってはそういうところもあります。</p> <p>防災の関係でいけば、隣近所で声かけ運動をして、災害の時は、声掛け運動をやっていくことによって、その状況がわかります。コンビニも一つの方法だと思います。地域には福祉委員、民生委員もいますので、協力していくことだと思います。</p> <p>2,3日前の新聞で、厚生労働省の自殺が11月は1798人と、今年はかなりコロナの関係で女性の自殺が増えてきているという統計も出ています。</p> <p>隣近所、地域での声かけ運動が、一つの方法だと思います。質問の形で出したのは、子どもの自殺もあります。心理学的に専門家ではないので、ひきこもりもそうですし、ひきこもりの関係の講座も受けてきたのですが、私たちは専門家でないので、難しくわかりません。指針をある程度市として出していただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>本当にいろいろなところで追い込まれている人をキャッチしてサポートにつなげていくということ、及び市全体のまちのあたたかみも培っていく必要があるのではないかと思います。みんなで取り組むというそこに一番大きな意味があるように思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>宇治市が少ないというのは確かなのかもしれないけれども、そういう波はコロナのこともあるので、いつ押し寄せてくるかもしれないですし、どういう時に危ないのかということと、話を聞いた人が抱えすぎないところなども合わせて知識として全体的に広めていく必要がある時代と思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>市民に分かりやすい、こういう時にみんなで気をつけたいということが打ち出せるとよいと思います。ご家族のこと、自死家族は自分たちのせいで、あるいは自分たちが至らなかったために大切な人を自殺に追い込んでしまったという自責の思いをとでも持ってらっしゃいます。</p> <p>決してはそうではないですけども、もっと広い視野で見えていく問題なのですが、</p>

	<p>自死家族を支える社会的な手立てというのも大切なテーマではないかと思いました。この点についても、考えていきたいものでございます。</p>
委員	<p>昨年 21 名と出ていましたが、宇治市民の方なのか、宇治市にも自殺の名所がありますが、他所から来られた方が、宇治市で亡くなられた場合は、自殺のカウントになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>21 名は宇治市民の方です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。おおよそ予定した時間になりました。様々なご意見をいただきました。お気づきのことがあれば、どんなことでも結構でございます。</p>
委員	<p>1点だけ提案させていただければと思います。第3期の計画を検討いただいているということ、非常に重要なこととっていて、宇治市民の皆さんに多く知っていただきたいという思いがあります。</p> <p>具体的な提案と、宇治市民向けのいわゆるワークショップなどをやっていただき、地域福祉計画というのを、皆さんと一緒につくっているということ、知ってもらえる機会を持つべきではないかと思っております。事務局の方にも提案させてもらっているのですが、実際にやれるかどうか、いつかノウハウをどうするかなど、コロナの問題もありますので、例えばオンラインでやるなども含めご検討いただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>ワークショップの件ですけれども、第3期地域福祉計画を策定にあたっては、現在のところ考えていないのですが、地域福祉推進委員会の委員として、各団体からや市民公募の委員のみなさまに関わっていただいて、市民の意見を反映していこうということがございます。</p> <p>前回議論いただきましたアンケートでも市民のお考えや意見をお聞きし、初案ができましたらパブリックコメントという形でまた市民の皆様にお示しをさせていただくという機会がございますので、現時点では考えていないところですが、今おっしゃっていただきましたご提案につきましては、またこちらの方でも可能かどうかも含めまして検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>この場所も一種のワークショップです。各委員さんそれぞれ、グループなり、組織に所属しておられますので、地域福祉計画について、話題にされたり話し合ったりされると思います。いろいろな市民のいろいろな層の対話がオープンに開かれていくというのは、私も大事なことだと思います。</p>
委員長	<p>◆次第4 その他 その他として、事務局からございますか。</p>
事務局	<p>自殺対策というということで、コロナ禍の中で、9月 10 日には当時の加藤厚生労働大臣が緊急のメッセージを出されているような事態になっておりますので、しばらく自殺の増加に対する危機意識を我々しっかりと持って、対策を本会のご意見を踏まえながらできることは取り組んで参りたいと考えております。</p> <p>国も医療の問題と経済の問題をどうするかということで、バランスをいかにとるか</p>

委員長	<p>という難しさがあるわけですが、我々としては自殺者を一人でもなくす、宇治市としてはゼロにしたいということが基本目標ですので、それに向けて取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p> <p>そうした中におきまして地域福祉の重要性というのは、ステイホームと地域福祉が矛盾するような関係にございますので、コロナ禍の中で地域福祉をどう推進していくか、本日のご意見を踏まえて今後とも進めてまいりたいと考えております。</p> <p>気温がかなり低くなってきております、ご自愛いただきまして、素晴らしい 2021 年を迎えられますことを祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p> <p>これもちまして、本日の推進委員会の協議を終了させていただきます。大変貴重なご意見ありがとうございました。私からもお礼を申し上げます。お疲れさまでございました。</p> <p>(終了)</p>
-----	---